■慶應義塾大学産業研究所社会心理学班研究モノグラフ／No. 36

Dosefu グループ・テストの改訂

1. 目　的……45

2. 方　法……49

3. 結　果……51

4. 考　察……59
資　料

5. 文　献……71

■槇田　仁・西村麻由美・岩熊史朗

本研究においては，多くの高校，専門学校，短大，大学，そして企業の方々に被験者としてご協力いただきました。これらの方々にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

データ収集にあたっては，慶応義塾大学文学部の古崎敬先生，海津忠雄先生，関場武先生，前田富士男先生，そして，慶応義塾大学産業研究所主催の SCT セミナーの受講生（1991 年度）の方々に多大なご尽力を賜りました。また，（株）福武書店には「進研スコープ」誌上において，データ収集にご協力いただきました。道見由貴氏をはじめ，ご協力いただいたスタッフの方々に感謝の意を表します。

また，テスト用紙改訂の作業にあたってご協力いただいた，大学院パーソナリティ実習の受講生の方々に心より御礼申し上げます。

最後に，慶応パーソナリティ研究会のメンバーの方々には，データ収集をはじめ様々な点においてご助力いただきました。特に櫃田紋子氏には，Dosefu グループ・テストの研究初期から携わっていただき，今回の改訂においても貴重なご助言を賜りました。ここに記して感謝の意を表する次第です。

執 筆 者 紹 介

●まきた　ひとし　　（慶應義塾大学名誉教授）

●にしむら　まゆみ

●いわくま　しろう　　（慶應義塾大学新聞研究所研究員）

1 目的

1.1. 指向的側面……45
1.2. Dosefu 個人テスト……46
1.3. Dosefu グループ・テスト……47
1.4. 本研究の目的……47

1.1. 指向的側面

パーソナリティのとらえ方にはさまざまな理論・立場があるが，われわれはパーソナリティの構造を次のようなスキームとしてとらえるのがよいのではないかと考えている。すなわち，パーソナリティの構造は3つのクラスターに大別することができる。1つめのクラスターは社会生物的基礎とでも呼ぶべきものである。その内容としては，その人を取り巻く文化的環境である社会や家庭，そしてパーソナリティの素材としての生物的基礎である身体と知能とが考えられる。2つめのクラスターは性格であり，それは体質とも関連し，遺伝的・素材的要素の強い気質と，後天的な獲得的様相の強い力動にわけて考えることができる。3つめのクラスターはその人の指向的な側面であり，その内容は願望・興味，生活態度，価値観，人生観といったものを考えることができる(槇田・岩熊・西村，1993)。

パーソナリティの診断は，そのようなスキームの内容によって種々のテストを組合せ，総合的な判断を下すことが望ましい。本研究で取り上げる「Dosefu グループ・テスト」は，パーソナリティの指向的側面をとらえることを目的として槇田らによって開発されたテストである（槇田・佐野・櫃田，1972)。

槇田らは，指向的側面を人生観・生活態度・目標・キャセクションなど，その人の全人格が指向している側面としてとらえている。一方，狭義のパーソナリティをその形成という観点でとらえた場合，同心円状の図式を想定することが一般的である（図1)。図でみられるように，先天的な性格特性・体質と密接な関係がある「気質」を同心円の中心に置き，そこから外側に向かって順に，気

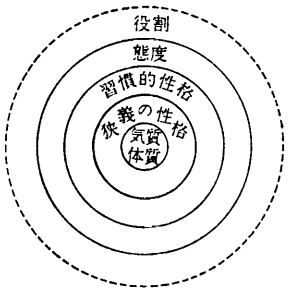

図1 狭義のパーソナリティ（槇田・佐野，1965より)

質に加え多少環境の影響により形成される性格特性である「狭義の性格」，社会的・文化人類学的条件によって形成される「習慣的性格」，種々の生活態度・価値観・人生観のようなものを総称した「態度」，その上に後天的に加えられる「役割」を考えるものである。そして，Dosefu グループ・テストあるいは後述の Dosefu 個人テストがとらえようとするものは，同心円の「態度」の比較的下層の部分であり，われわれがもっているさまざまな生活態度の基本的な側面，つまり「基本生活領域」に焦点を当てたものである（槇田・佐野，1965）。

1.2. Dosefu 個人テスト

人間の指向的側面については，さまざまな研究がなされてきたが，一般的に思弁的な色合いの濃いものが多い。たとえば，Spranger (1919) の 6 つの理想類型（経済型，理論型，審美型，宗教型，権力型，社会型）が代表的である。

槇田らは，それらに客観的・実証的裏付けが無いことを指摘し，指向的側面についての客観的なデータに基づき，dimension（次元）の設定を行なった。そして，その次元に基づいたテストの開発を目指した。その結果まず作成されたのが，「Dosefu 個人テスト」（槇田・佐野，1965）である。

Dosefu 個人テストは，具体的には次のような手順で作成された。

まず，多数の人間に 5 つの単語を刺激としてあたえ，それについて頭に浮かんだことをすべて言わせる。そのようにして得られた反応（item）の中から代表的な反応を選び出し，類似性判断と H. Harman (1954) の方法による因子分析を用いて 6 つの次元を設定した。各次元の内容は次の通りである。

dimension D (Daily life)
　日常生活，家庭生活などに関係のあるもの
dimension O (Objective)
　客観的ないし記述的（たとえば，犬には足が 4 本あるなど，いわば客観的に述べたもの），理論的，学問的
dimension S (Social interest)
　社会的，社会事象，トピックなどについて述べたもの
dimension E (Emotional)
　情緒的，心理的な観察など
dimension F (Fine & Arts)
　官能的，審美的，芸術的なもの
dimension U (Unique)
　非常にユニークな見方，奇抜なアイディアなど

それぞれの次元の内容をあらわす英単語の頭文字をその次元の名称とし，それらを組合せてテストの名前（Dosefu）とした。そして，この次元にのっとり，すべての item をばらばらに再構成し，「評価規準例」とした。

Dosefu 個人テストの施行・評価方法はさまざまな試行の結果，概略次のような方法をとることとした。

まず，被験者に刺激語（「犬」「写真」「木」「茶碗」「お金」）を 1 つずつ示し，それについて頭に浮かんだことをすべて口述，またはテスト用紙に筆記させる。時間は各問題 12 分を与える。評価者は得られた反応を上記「評価規準例」に照らし合わせ，どの次元に当てはまる反応であるかを 1 つずつ分類していく。そして，総反応数に対する各次元ごとの反応数の割合を算出する。それが被験者の各次元に対する得点となる。

次に，テストの結果を表示する方法として，各次元に対する得点をある幅のパーセンタイル値で切り（Cutting Point），その幅をとった人間に対してその次元のレッテルを貼ることとした。各次元で特に高得点であった者に対しては，その次元を強く持っているものとして大文字を与え，それに準じた者には小文字を与える。実際の type の表示は，D や o といった大文字，小文字単独の場合もあるし，Deu といった複合型の場合もある。また，どの次元の得点も Cutting Point に達しなかった場合には，M (miscellaneous) になる。

1.3. Dosefu グループ・テスト

以上のように，Dosefu 個人テストは作成された。しかしながら，このような指向性についての検査がおもに実用化される場が，たとえば高校生の進路指導や就職の際の適性検査であることを考えると，実施時間が長く，集計の手間のかかる個人テストは適さない。また，実際の臨床場面でも，大まかな個人像を把握することを目的とする場合は，もっと簡単なテストの存在が求められる。もしその結果，精査が必要であれば個人テストを試行すればよい。そこで，施行方法・集計がともに簡易で，短時間に多数に施行できるテストを作成することにした。

あくまで Dosefu 個人テストをもとにした簡便な方法のテスト形式を開発するため，さまざまな試み，標準化，改訂が繰り返し行われた。その結果，Dosefu グループ・テスト（槇田・佐野・櫃田，1972）が完成した。

Dosefu 個人テストが被験者の自発的表現を求める形式であったのに対し，グループ・テストは，選択式のペーパー・テストの形式をとることとした。これは，5 つの刺激語に対し，それぞれ 10 問の選択問題を設けたものである。各問題は，個人テストの評価規準例を選択肢（item）として示し，その中から自分の言いそうなものを 2 つずつ被験者に選択させる。各問の item にはすべての次元が含まれるようにし，さらにそれぞれの問において，1 つの次元についてのみ 2 つの item が含まれるようにした。そのため，各問の item の数は 7 つとなる。最終的には，刺激語ごとに 70 の選択肢があり，計 350 の選択肢が用意される。次元ごとにみれば，D, O, S, E, F は刺激ごとに 12 で，計 60 の選択肢を設け，U については元来反応数が少ないため，各刺激語ごとに 10，計 50 の選択肢を設けた。そして，被験者には 1 問ごとに 2 つずつを選択させる。つまり，被験者は 5 つの刺激語のそれぞれにつき 20 個，計 100 個の item の選択を求められる。結果の集計は，各 item が属する次元を記した採点盤を用い，各次元の item の個数を得点として算出する。このような工夫を行なった結果，実施時間は 20～30 分程度に短縮し，集計方法も評価者が item の次元の判断をする必要がなくなった。また，選択された item 数が総計 100 であるため，% を算出する必要もなくなる。

1.4. 本研究の目的

上記のように，Dosefu グループ・テストの作成に際しては，幾度かの item や Cutting Point の検討・改訂がなされてきた。しかし，最終的に Cutting Point の改訂のためのデータ収集を行ったのが昭和 42 年であり，すでに 20 年以上の年月が経過した。そのため，選択肢（item）の表現が古い感じを与えたり，社会変動により表現として適切でない部分もあるように思われた。また，さまざまな社会事象の変化からは，得点の分布の変動も予測される。そこで今回，item の内容を点検し，適切でないものに関しては変更を行ない，テスト用紙を改訂することとした。それにともない，新しいテスト用紙でのデータ収集を行い，Cutting Point についても検討を行なった。

2
方法

2.1.　テスト用紙の改訂……49
2.2.　データの収集……50

2.1.　テスト用紙の改訂

今回の改訂では，まず，テスト用紙の item の検討を行なった。目的の項で述べた通り，Dosefu グループ・テストは初版作成から 20 年以上の年月が経過しており，文章が古めかしく感じられたり，社会現象の変化により，事実と異なってしまっていたり，表現として適切でない部分が見受けられる。

そこで，そのような傾向が認められる item に対し変更を加えることにした。現在から将来にわたって通用するような表現をも取り入れるために，Dosefu 個人テストの反応を用いることにした。まず，1990 年 5 月に大学生 50 名を被験者として得られた Dosefu 個人テストの反応から，個人テストの評価規準例にはなかった表現を抜き出した。そして，それらの中から，今日的な表現ではあっても一時的ではなく，やや長いスパンで使用されると思われる表現を選び出した。新しい item の選択は，大学院在学以上の 12 名の合議によって進められた。

以上のような手続きで item の検討を行った結果，何らかの変更・改訂を行った item は，全 350 item 中 71 item であった。改訂した理由はさまざまなものがあるが，大別するとおよそ次のようになる。

・今日ではほとんど使われない表現
《例：月給日。給料袋。→給料日。給与明細》
・社会事象の変化により，事実と異なったり，ニュアンスの違いがあるもの。
《例：写真工業が発達してカメラが一般的になった。→写真工業が発達して簡単にきれいな写真がとれるようになった。》
・現在では差別的表現と判断される可能性があるもの。
《例：家計のやりくりは主婦の仕事。→家計のやりくりは悩みのタネ。》
・読みやすさという点で漢字を平仮名に，またはその逆にした方がよいと判断されたもの。
《例：御飯茶碗→ごはん茶わん》

今回の改訂では 5 つの刺激語については特に改訂の必要はないと判断し，「茶碗」をより平易にする目的で「茶わん」という表記に変更した他は

変更を行っていない。

なお，改訂された全 item の内容ならびに，旧 item からの変更点については，資料編に掲載した。

次に，テスト用紙の表紙の部分については，以下のような変更を行なった。

「記入の仕方」の部分については，インストラクションの文章はそのままとし，例題を変更した。旧テスト用紙に例題としてあげられていたものは「たばこ」であったが，「たばこ」が今後社会的な問題としてイメージされても，被験者に日常的で親しみやすいものとしてとらえられなくなる可能性があり，例題としては不適切と思われたため，これを「コーヒー」に変更し，新たな item 例を作成した。

新たなテスト用紙の「記入の仕方」は次の通り。

記入の仕方

1　まず，上のらんに性別と年齢を記入して下さい。

2　もし，あなたが「コーヒー」について“頭に浮かぶ事を何でもいいなさい”といわれたらどんな事をいいますか。ちょっと，目をつぶって考えてみて下さい。

例えば，下の「**例**」にあげてあるようなものが，いろいろ浮かぶだろうと思います。

この紙をめくると，このような「1 つのことば」について，大ぜいの人に言ってもらった事が，いろいろ書いてあります。そして，それらは「**例**」にあげてあるように，7 つずつ 1 組になっています。

その 7 つをよく読んで，“あなただったらいいそうだと思うもの”を 2 つだけえらんで「**例**」のように○をつけて下さい。

あまりいいそうだというものがない時でも，いちばん近そうなものを 2 つえらんで下さい。

時間の制限はありませんが，できるだけ早くやって下さい。

【例】

「コーヒー」

イ　コーヒーの原産地はアフリカ。
㊀　コーヒー代もばかにならない。
ハ　おもに熱帯地方で栽培されている。
ニ　コーヒー豆の種類は多い。
ホ　コーヒーの香りをかぐと，くつろいだ気分になる。
㊇　コーヒーを飲むと，夜眠れなくなる。
ト　喫茶店のレジでコーヒー代を誰がもつかでもめているグループ。

なお，再標準化のためのデータ収集に用いたテスト用紙では，被験者の抵抗感を弱めてデータ回収の可能性を高めるため無記名とし，性別と年齢のみを記入させた。

また，通常のテスト用紙の裏面にある採点用のヒストグラムも削除した。

2.2.　データの収集

以上のような手続きで作成された新たなテスト用紙を用いて，データ収集を行なった。今回対象とした集団は，Dosefu グループ・テストが主として高校生や大学生の進路指導や社員採用の適性診断の場で利用されることを考慮し，高校生，専門学校生，短大生，大学生，20 才台の社会人とした。これらのデータは，複数の集団から収集し，サンプルが特定の集団に偏ることのないよう配慮した。

データ収集は，教室での集団施行，あるいは持ち帰りで記入させる方法をとった。

このような方法で平成 3 年 (1991 年) から同 4 年 (1992 年) にかけてデータの収集を行った結果，回収されたサンプル数は，男性 1,319 名，女性 1,813 名，計 3,132 名である。属性別にみると，高校生 1,172 名，大学生 (専門学校生，短大生，大学生) 1,202 名，社会人 (会社員，主婦，その他) 758 名である。

3
結果

3.1. 改訂された item の妥当性……51
3.2. 刺激語別にみた各次元の平均得点……51
3.3. 性別・属性による各次元の平均得点…52
3.4. Cutting Point の決定……53
3.5. 次元間の相関……54
3.6. 性別でみた被レッテル者の分布……54
3.7. 属性別にみた被レッテル者の分布……56

3.1. 改訂された item の妥当性

今回改訂された item が妥当であるかどうか検討するため，item ごとの反応数と反応頻度を算出した。その結果については，資料編に掲載した。初版の標準化の過程と同様に，item が妥当であるかどうかの基準を item が極端な反応頻度を示さないこととし，70% 以上または 10% 以下の反応頻度を示す item のチェックを行なった。

今回何らかの改訂・変更を行なった全 71 item のうち，そのような反応頻度を示したものは，70% 以上が 1 item, 10% 以下が 7 item であった。それらの item が DOSEFU のうちどの次元に属する item であるかをみると，70% 以上の 1 item は，D に属し〔犬 3 イ「朝と晩に散歩させる。」77.8%〕，10% 以下の item は，U が 4 item〔木 1 ヘ「木の毒-気の毒」6.0%，木 2 ニ「おまえの目はふしあな。」4.1%，茶わん 9 ニ「湯呑茶わんの中の入れ歯。」7.1%，お金 1 ト「コイン・トス。銭うらない。」7.3%〕，S が 2 item〔茶わん 1 ハ「茶わんの産地は中部地方に多い。」9.6%，茶わん 6 イ「茶わんの製法は中国から伝わってきた。」9.6%〕，F が 1 item〔茶わん 2 ヘ「茶わんのにぶい光沢。」9.5%〕であった。

D は日常生活に密着した内容で，基本的な次元であり，選択しやすい item である。反対に U は文字どおりユニークな内容を示す次元であり，選択率は低くなりやすい。その他の S や F の item の反応頻度はいずれも 9.5% 以上である。従って，今回の item の改訂については特に問題ないと判断した。

3.2. 刺激語別にみた各次元の平均得点

Dosefu グループ・テストにおいては，被験者は 7 item の中から 2 つを選択するという施行を 1 つの刺激語に対し 10 回繰り返す。従って，1 つの刺激語につき 20 個の item が選択される。それが「犬」「写真」「木」「茶わん」「お金」の 5 つの刺激語に対してなされるので，最終的に被験者は 100 item を選択することになる。よって，100 item の各次元ごとの個数を数えることで，そのままその被験者の各次元に対する得点となる。

一人の被験者が平均して各次元いくつの item

表 1　刺激語別にみた各次元の平均得点

	新データ						旧データ					
	D	O	S	E	F	U	D	O	S	E	F	U
犬	5.9	2.9	2.9	5.2	1.8	1.2	4.3	3.5	2.7	4.5	3.3	1.6
写真	6.0	2.3	3.4	4.6	1.6	2.1	4.6	3.9	4.2	3.5	2.0	1.7
木	4.7	2.9	3.6	4.6	3.4	0.7	3.1	3.8	3.9	4.1	4.2	0.9
茶わん	5.6	2.9	3.0	5.0	2.3	1.2	3.8	3.6	3.4	4.5	3.6	1.2
お金	5.8	2.3	2.8	5.1	2.4	1.7	4.0	2.9	4.0	4.4	2.7	2.1

を選択したかを示す平均得点を刺激語別に算出し，新旧のデータを比較した結果は表1の通りである。

表1の結果を全般的にみると，どの刺激語においても D が最も高得点で，ついで E が高い得点を示し，U は比較的得点が低いという傾向は共通している。刺激語による傾向の違いは，「木」においてFの得点が他に比して高いことぐらいであった。「木」においてより美的な item が選択されやすいというのは了解可能な結果である。

旧データと比較してみると，刺激語による得点の差は縮小化している。旧データでは「木」において最も高得点であったのは，F の次元であり，D の平均得点は U についで低いものであった。また，「お金」では比較的 S の item が選択されやすいのではないかと予測されるが，今回のデータでは平均得点は 2.8 と，5 つの刺激語のうち最も低い。旧データでは 4.0 であり，減少の傾向にある。

以上のように，各次元に対する平均得点のあらわれかたは，各刺激語でほぼ共通しており，刺激語による差異も今回のデータでは旧データに比べて縮小化しており，「犬」「写真」「木」「茶わん」「お金」は，Dosefu グループ・テストの刺激語として適切なものであると判断した。

3.3.　性別・属性による各次元の平均得点

性別と属性別にみた各次元の平均得点と標準偏差を算出した結果を表2に示す。

まず，各次元の平均得点から次元を大別すると，高い得点を示す D, E と，やや高い得点を示す O, S, F に分けられる。一方，U は，他の次

表 2　性別・属性による各次元の平均得点

	新データ																		旧データ											
		D		O		S		E		F		U			D		O		S		E		F		U	
	N	X	SD	X	SD	X	SD	X	SD	X	SD	X	SD	N	X	SD	X	SD	X	SD	X	SD	X	SD	X	SD
総合 Σ	3,132	26.0	7.3	13.4	5.5	15.6	6.0	24.5	7.4	11.5	5.7	6.9	4.8	2,342	23.8	8.1	13.7	7.1	16.1	7.5	25.7	7.9	15.0	7.2	5.4	5.2
男	1,319	26.0	6.7	14.8	5.7	17.6	6.2	22.6	7.2	11.5	5.9	7.6	5.3	1,306	21.3	7.4	15.6	7.5	17.8	7.8	23.6	8.0	15.3	7.4	6.2	5.8
女	1,813	29.5	7.3	12.3	5.1	14.3	5.5	25.9	7.2	11.6	5.5	6.4	4.3	1,036	27.1	7.8	11.4	5.8	13.9	6.4	28.4	7.1	14.7	6.9	4.4	4.1
高校生 Σ	1,172	27.7	7.1	13.9	5.8	15.6	6.0	24.3	7.7	10.8	5.1	7.7	5.0	395	23.5	8.1	13.4	6.6	15.6	7.1	25.3	7.8	15.3	6.5	6.9	6.3
男	404	25.5	6.7	15.4	6.1	17.9	6.2	22.1	7.6	10.3	4.9	8.8	5.8	202	20.9	7.7	15.1	7.0	17.4	7.5	23.4	7.8	15.4	6.6	8.3	7.2
女	768	28.9	7.1	13.1	5.4	14.3	5.5	25.5	7.4	11.1	5.2	7.2	4.4	193	26.2	7.7	11.7	5.6	13.8	6.2	27.6	7.2	15.3	6.4	5.4	4.7
大学生 Σ	1,202	28.4	7.4	12.7	5.2	14.8	5.7	25.3	7.1	12.2	6.0	6.6	4.7	1,383	22.9	7.9	13.4	7.9	15.4	7.2	26.2	8.1	16.3	7.4	5.6	5.1
男	500	26.2	6.6	14.4	5.5	16.4	6.0	23.7	6.9	12.0	6.0	7.3	4.9	829	20.9	7.3	14.7	7.3	16.6	7.5	24.5	8.0	16.7	7.5	6.3	5.6
女	702	30.0	7.5	11.5	4.6	13.6	5.3	26.5	7.0	12.3	6.0	6.1	4.4	554	26.0	7.6	11.3	5.9	13.6	6.4	28.8	7.4	16.2	7.3	4.5	3.7
社会人 Σ	758	27.9	7.3	13.5	5.5	17.1	6.3	23.6	7.2	11.6	5.9	6.2	4.6	564	26.4	8.1	14.6	7.1	18.0	7.9	24.8	7.9	11.7	5.9	4.0	4.8
男	415	26.1	6.7	14.6	5.6	18.5	6.2	21.9	7.1	12.0	6.3	6.8	5.1	275	23.0	7.3	17.2	7.4	21.6	7.7	21.2	7.5	11.1	5.9	4.4	4.4
女	343	30.1	7.4	12.2	5.0	15.5	5.9	25.7	6.8	11.1	5.2	5.4	3.9	289	29.6	7.5	11.3	5.6	14.6	6.6	28.3	6.7	12.3	5.8	3.7	3.0

元と比べ一般的に選択されにくい次元であると言える。旧データでも，この傾向は同様に見られるが，D の平均得点が 23.8 から 28.0 へと大きく上昇し，F の平均得点は 15.0 から 11.5 に減少する動きが特に大きな変動として認められた。また，O, S, E ではやや減少し，U ではやや増加した。

性別を見ると，女性は D, E において男性より高い得点を示しており，男性は O, S, U で女性より高い得点を示しているが，F ではほとんど男女差は認められない。女性が D, E 的で，男性は女性より O, S, U 的であるというイメージは，社会一般に認められている女性らしさ，男性らしさのイメージと一致するものである。この傾向は旧データと同様であるが，数値の点でみると男女差は縮小している。D において男性の平均得点が21.3 から 26.0 と高くなり，E では女性の平均得点が 28.4 から 25.9 へと低くなっている。また，U においては女性の平均得点が高くなっている。

属性別にみた場合，大きな差は認められないが，社会人で S の得点が他に比して高く，大学生では F が高い。U は高校生で高い得点を示し，年齢が高くなるにしたがい，得点は低くなる傾向がある。社会人になると被験者を取り巻く環境から社会的な関心を持つことが多くなると思われるし，大学生の年代では最も美的な感覚について関心が深まることも納得できる。また，高校生の年代で他者と違う自己を強調しようとする傾向の反映として U の得点が高く，加齢に従って協調的，常識的な態度を社会から要請されるようになり，U の得点は低くなっていくと考えることもできる。属性を男女別に比較した場合には，大学生の男性は他の属性の男性に比べて，E の得点が高く，S が低いという，女性の特徴に近い傾向を示している。

旧データとの比較という点では，特に次のような変化が認められた。大学生の男性で D の数値が高くなっていること，社会人の男性の O と S の数値が低くなっていること，高校生，大学生の F の数値が低くなっていること，社会人の U の数値が高くなっていることといった点である。つまり，属性による差異も縮小の傾向にあるとみることができる。

3.4. Cutting Point の決定

以上のような基本的な傾向の変化を踏まえた上で，新しい Cutting Point を決定した。Dosefu テストでは，ある幅のパーセンタイル値をとった被験者にその次元のレッテルをはる。つまり，最上位群の被験者にその次元の大文字，それに準じた群に小文字をレッテルとして与える。そして，各次元で大文字，小文字のレッテルをはる境界の得点が Cutting Point である。

新しい Cutting Point は，各次元の相対累積度数のカーブを参考に，旧版の標準化の過程で採られてきたパーセンタイル値を規準にして決定した。

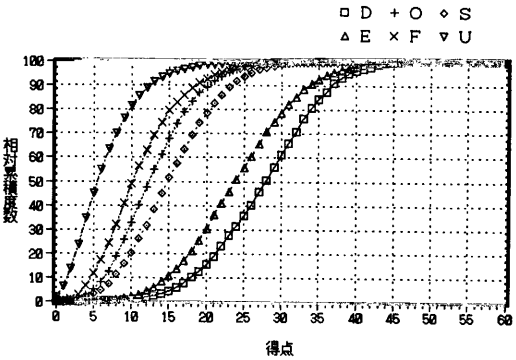

図 2　各次元の相対累積度数分布

表 3　新しい Cutting Point

D	40.0～	(38.0)
d	36.0～	(34.0)
O	23.0～	(28.0)
o	19.0～	(23.0)
S	26.0～	(30.0)
s	22.0～	(25.0)
E	37.0～	(40.0)
e	33.0～	(36.0)
F	23.0～	(29.0)
f	18.0～	(24.0)
U	23.0～	(24.0)
u	16.0～	(17.0)

注）（　）内の数値は旧版の Cutting Point をしめす。

各次元の相対累積度数分布を図2に示す。今回のデータでは，カーブのとり方からみて，6つの次元を3つのグループに分類することができる。つまり，緩やかなカーブを示すDとE，急激なカーブを示すU，中間的なSとOとFの3グループである。Uの次元が他の5次元とかなり異なった性質を持つ次元であり，Cutting Pointの決定においても他の次元と違う扱いをすべきであることは，今回のデータでも同様に確認された。U以外の次元をほぼ同じ規準で扱うことが問題ないとしても，旧データと比較してみた場合，次元の持つ性質がやや変化しているのではないかと思われるような傾向もみられた。その中では，Eについての変化が特筆される。旧データにおいては，平均得点が高く緩やかなカーブの形を描いていたD, O, Sが1つのグループとして基本的な次元であると考察されたのに対し，EはFと同様のやや急なカーブを描いており，一般に人間に共通した次元であるというよりは，基本的な次元に付加される色合いのような性格を持つものと考察された。今回のデータでは，Eは非常にD的な，つまり人間としてかなり一般的な次元としての性質をもって来ているように見受けられた。また，OやSはF的な傾向に近付いていると考えることができる。

旧版の標準化の過程においては，何度かCuttingの改訂を行なってきたが，パーセンタイル値をDosefu個人テストの規準に準じて採用している。すなわち，U以外の5次元については，大文字は上位約4%，小文字はそれにつぐ約8%，計12%。Uは大文字約1%，小文字約3%，計約4%というものである。今回の改訂においても，その数値を規準として，Cutting Pointを決定した。その結果を表3に示す。

Cutting Pointは今回の改訂でかなり大きな変動を示した。その動きは，各次元の平均得点における変化で予測されるように，Dで高く，O, S, E, Fで低くなるというものであった。変化の幅は3点から6点とかなり大きなものとなった。Uにおいても，大文字，小文字とも1点ずつ低くなるという変動が見られた。

表4　各次元の得点間の積率相関係数

	D	O	S	E	F	U
D		-.30	-.15	-.11	-.50	-.23
O			.44	-.56	-.21	-.16
S				-.57	-.40	-.19
E					.15	-.20
F						.08
U						

3.5. 次元間の相関

各次元の得点間の積率相関係数を表4に示す。Dはすべての次元と負の相関を示し，他の組合せもほとんどが負の相関を示している。しかし，OとS, EとF, FとUの組合せでは正の相関がみられた。確かに次元の意味から考えると，Oを選択しやすい被験者はSの次元に関心を持つであろうし，Eの傾向を強く持つ被験者はFの傾向を合わせ持っているように思われる。また，Fを多く選択する被験者は個性を大事にするであろう。特にOとSは.44と高い正の相関を示し，次元相互の密な関連性を感じさせる。

負の相関の中で高い値を示したのは，OとEで−.56, SとEで−.57であった。Eの反応を強く示す被験者はOやSの反応は選択しないというのもイメージとしてうなずける結果である。

3.6. 性別でみた被レッテル者の分布

表5は，新しいCutting Pointに基づいた各次元の被レッテル者の分布を，男女別に示したものである。

これをみると，DとEの次元は男性より女性の方が被レッテル者は多く，O, Sの次元では男性の方が多い。Fはあまり男女差が表れず，Uはやや男性の方が被レッテル者が多い。また，このような傾向が，表2の平均得点でみた場合より，より強い傾向として表れていることが分かる。

表 5　性別でみた被レッテル者の分布

	新データ						旧データ					
	性別				Σ		性別				Σ	
	男性		女性				男性		女性			
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
D	10	0.8	96	5.3	106	3.4	18	1.4	74	7.1	92	3.9
D＋α	0	0.0	7	0.4	7	0.2	1	0.1	3	0.3	4	0.2
D計	10	0.8	103	5.7	113	3.6	19	1.5	77	7.4	96	4.1
O	49	3.7	25	1.4	74	2.4	42	3.2	5	0.6	48	2.0
O＋α	28	2.1	12	0.7	40	1.3	18	1.4	4	0.4	22	0.9
O計	77	5.8	37	2.0	114	3.6	60	4.6	10	1.0	70	2.9
S	59	4.5	27	1.5	86	2.7	56	4.3	8	0.8	64	2.7
S＋α	32	2.4	9	0.5	41	1.3	22	1.7	3	0.3	25	1.1
S計	91	6.9	36	2.0	127	4.1	78	6.0	11	1.1	89	3.8
E	30	2.3	77	4.2	107	3.4	19	1.5	48	4.6	67	2.9
E＋α	4	0.3	19	1.0	23	0.7	12	0.9	9	0.9	21	0.9
E計	34	2.6	96	5.3	130	4.2	31	2.4	57	5.5	88	3.8
F	28	2.1	49	2.7	77	2.5	40	3.1	24	2.3	64	2.7
F＋α	12	0.9	12	0.7	24	0.8	14	1.1	9	0.9	23	1.0
F計	40	3.0	61	3.4	101	3.2	54	4.2	33	3.2	87	3.7
U	16	1.2	6	0.3	22	0.7	25	1.9	4	0.4	29	1.2
U＋α	4	0.3	3	0.2	7	0.2	4	0.3	2	0.2	6	0.3
U計	20	1.5	9	0.5	29	0.9	29	2.2	6	0.6	35	1.5
X	192	14.6	280	15.4	472	15.1	200	15.3	164	15.8	364	15.5
X＋α	80	6.1	62	3.4	142	4.5	71	5.4	30	2.9	101	4.3
X計	272	20.6	342	18.9	614	19.6	271	20.7	194	18.7	465	19.8
d	54	4.1	177	9.8	231	7.4	36	2.8	107	10.3	143	6.1
o	84	6.4	84	4.6	168	5.4	77	5.9	19	1.8	96	4.1
s	120	9.1	79	4.4	199	6.4	96	7.4	37	3.6	133	5.7
e	32	2.4	128	7.1	160	5.1	46	3.5	81	7.8	127	5.4
f	73	5.5	85	4.7	158	5.0	76	5.8	46	4.4	122	5.2
u	34	2.6	27	1.5	61	1.9	28	2.1	7	0.7	35	1.5
x	397	30.1	580	32.0	977	31.2	359	27.5	297	28.7	656	28.0
XY	20	1.5	16	0.9	36	1.1	22	1.7	8	0.8	30	1.3
xy	71	5.4	58	3.2	129	4.1	70	5.4	40	3.9	110	4.7
複合合計	91	6.9	74	4.1	165	5.3	92	7.0	48	4.6	140	6.0
M	559	42.4	817	45.1	1,376	43.9	584	44.7	497	48.0	1,081	46.2
Σ	1,319	100.0	1,813	100.0	3,132	100.0	1,306	100.0	1,036	100.0	2,342	100.0

注）D＋αとは，大文字Dと何らかの小文字のレッテルを持つ被験者をあらわす。つまり，Dを基本とする者という意味である。以下同様。
Xとは大文字の合計、xは小文字の合計をあらわす。
複合とは，一人で２つ以上のレッテルを持つ者のことで，XYは大文字の複合，xyは小文字の複合をあらわしている。
また，Mはmiscellaneousのことで、レッテルのつかない被験者をあらわす。

これらの特徴は，旧データが示したものと全く同様のものである。しかしながら，被レッテル者の割合を旧データと比較すると，次のような変化が認められた。

D の被レッテル者においては，女性は大文字，小文字共減少しているが，特に大文字でその傾向が強い。男性は大文字ではやや減少しているが，小文字では増加している。O の次元では女性で大文字小文字共に増加しているが，特に小文字で変化が大きい。F の次元は旧データでも男女差がはっきりしていなかったが，今回のデータではますます男女差は小さくなっている。さらに U の次元では，大文字の男性が減少している。つまり，ここでも新旧データでの数値の変化は，男女差の縮小化の傾向を示している。

3.7. 属性別にみた被レッテル者の分布

属性別にみた被レッテル者の分布は表6の通りである。

全般的にみて，属性で特に大きな差は認められないが，傾向としては次のようなものがあげられ

表 6　属性別にみた被レッテル者の分析

	新データ				旧データ			
	属性				属性			
	高校生	大学生	社会人	Σ	高校生	大学生	社会人	Σ
	%	%	%	%	%	%	%	%
D	2.9	4.3	3.6	3.6	4.1	3.0	6.7	4.1
d	7.3	7.7	7.0	7.4	5.6	4.1	11.3	6.1
D計	10.2	12.1	10.6	11.0	9.7	7.1	18.0	10.2
O	4.7	2.7	3.4	3.6	1.3	2.6	5.1	2.9
o	7.0	4.2	4.7	5.4	4.1	4.2	3.9	4.1
O計	11.7	6.9	8.2	9.0	5.4	6.8	9.0	7.0
S	4.4	1.8	7.1	4.1	2.5	3.1	6.4	3.8
s	5.5	6.1	8.0	6.4	5.3	5.0	7.6	5.7
S計	9.9	7.9	15.2	10.4	7.8	8.1	14.0	9.5
E	4.5	4.4	3.2	4.2	2.5	4.6	2.5	3.8
e	6.3	4.8	3.7	5.1	7.1	5.4	4.4	5.4
E計	10.8	9.2	6.9	9.3	9.6	10.0	6.9	9.2
F	2.1	4.3	3.2	3.2	3.5	4.8	1.2	3.7
f	3.7	6.4	5.0	5.0	3.8	7.2	1.4	5.2
F計	5.8	10.7	8.2	8.3	7.3	12.0	2.6	8.9
U	1.4	0.7	0.5	0.9	3.3	1.4	0.4	1.5
u	2.1	1.9	1.7	1.9	2.5	1.5	0.7	1.5
U計	3.5	2.7	2.2	2.9	5.8	2.9	1.1	3.0
X	20.0	18.4	21.0	19.6	17.2	19.6	22.3	19.8
x	31.9	31.1	30.2	31.2	28.4	27.3	29.4	28.0
X計	51.9	49.5	51.2	50.8	45.6	46.9	51.7	47.8
複合合計	3.8	5.7	6.9	5.3	4.6	5.3	8.7	6.0
M	44.3	44.8	42.0	43.9	49.9	47.8	39.5	46.2
Σ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注）この表中でのDは，表5でのD計，つまりD単独の被レッテル者と，Dと何らかの小文字のレッテルを持つ者（D＋α）の合計をあらわしている。以下大文字の意味するところは同様である。
Xは大文字の合計，xは小文字の合計をあらわす。
複合とは一人で2つ以上のレッテルを持つ者のことをあらわしている。
また，Mはmiscellaneousのことで，レッテルをはれない者をあらわす。

る。社会人でSの被レッテル者が多く，Eの被レッテル者は年齢の低い層（高校生・大学生）で多い。大学生でFの被レッテル者がやや多く，Uの被レッテル者は年齢が高くなると減っていく傾向にある。

以上のような傾向は平均得点での結果と一致するものであり，旧データでも全般的な傾向としてあらわれたものであった。しかしながら，個々の数値を新旧データで比較を行なうと，属性間の差を縮める傾向での変動がいくつか認められた。

Dの次元では旧データでは社会人の被レッテル者が多かったのに比べ，新データでは社会人で減少し，大学生で増加しており，数値は平板化している。Fの次元では社会人で増加し，大学生で減少している。Uの次元では高校生の被レッテル者が減少し，一方で社会人の被レッテル者がやや増加している。何らかのレッテルがつけられる被験者の割合（X計）は，旧データでは加齢と共に漸次増加の傾向にあったが，新データではそのような傾向は見られない。

4 考察資料

Dosefu グループ・テストは，標準化のための最終的な改訂の作業を行ってから 20 年以上の年月が経過しており，item の表現が古くなったり，表現として適切でないと思われる部分があった。今回の改訂では，まず，item の内容・表現が現時点で，また今後使用していく上で適切であるかを検討する作業を行ない，不適切な部分については変更を行なって，新しいテスト用紙を作成することを目的とした。変更を行なった item については，反応頻度から妥当性を検討したが，極端な反応頻度を示したものは，変更を行った 71 item 中 8 item にすぎず，また次元のもつ意味や数値を検討した結果，各々 item としてほぼ問題はないものと判断した。

各性別や属性による次元間の差についても，旧データと同様の結果が得られた。すなわち，女性は D, E の次元で強く出やすく，一方男性ではそれは O, S, U の次元で強く出やすかった。一方，F の次元は比較的男女差が出にくい次元であった。社会人は S の次元が多く出やすく，大学生では F がそれにあたる。U の次元は高校生・大学生の低年齢層で強く出る傾向にある。

改訂版においても旧版とほぼ一貫した傾向が得られたということは，Dosefu グループ・テストの信頼性を裏付けるものと言える。

今回の結果を旧データと比較した場合，どの分析においても男女差，属性による差の縮小化が一貫した傾向としてとらえられた。元来，Dosefu グループ・テストは性別，属性による差はそれほど大きなものではなく，評価の数値もそれらによって修正する措置は採っていない。今回のデータでは，それにも増して，男女差，属性による差が小さくなるという傾向を示した。

今回，変化というものは，特に平均得点，Cutting Point の数値において顕著にみられた。社会全体の平均的な傾向としてみた場合，D, E 的な傾向が主流であり，O, S, F はどちらかといえばマイナーな存在になってきていると言えよう。D, E が女性でより出やすい次元であることを前提にすれば，いま日本の社会で優勢を占めている文化は女性的なものであるとも言えるし，男性が指向の面においてより女性的になったと解釈することもできる。そういう意味では，今回平均得点で特に大学生男子が示した傾向は非常に興味深い。

また，次元の持つ特徴の変化という点でも，今

回興味深い結果が得られたように思われる。特に，相対累積度数の描くカーブの形態をみると，EはDにより近付いており，一方O, SはFに近付いているように思われる。

このような結果からみて，D, Eがいま一般的に受け入れやすい次元であるとしても，人間が持つ指向性の次元として，何が基本的なものなのか，また，基本的な次元が時代的な影響を受けて変わり得るものなのか，次元相互の構造がどの様な意味を持つのかなど，人間の指向性の研究という点において今後もさまざまな角度から検討が必要であると思われる。

資料　項目別反応数（犬-1）

新版の項目《旧版》	領域	反応頻度 男性 n	男性 %	女性 n	女性 %	全体 n	全体 %
犬1イ　獣医。　犬の訓練士《訓練師》。　犬の美容院《床屋》。	S	247	18.7	498	27.5	745	23.8
ロ　強い犬。　やさしい犬。	E	630	47.8	842	46.4	1472	47.0
ハ　犬は鋭いキバ、長い舌をもっている。	O	232	17.6	266	14.7	498	15.9
ニ　犬をだいじにして、犬公方といわれた将軍がある。	S	170	12.9	120	6.6	290	9.3
ホ　犬と散歩。	D	1082	82.0	1522	83.9	2604	83.1
ヘ　ひなた《日向》の犬。　雨の日の《雨の》犬。	F	189	14.3	269	14.8	458	14.6
ト　犬よりうまい“犬かき”	U	87	6.6	107	5.9	194	6.2
犬2イ　目、足、尾	O	114	8.6	196	10.8	310	9.9
ロ　ぬれた鼻の ひんやりした感じ。	F	348	26.4	606	33.4	954	30.5
ハ　放し飼いにすると、近所で迷惑する。	D	370	28.1	474	26.1	844	26.9
ニ　犬は飼い主の感情がわかる。	D	741	56.2	1129	62.3	1870	59.7
ホ　人の気配に敏感だ。	E	584	44.3	725	40.0	1309	41.8
ヘ　一匹でも“ワンワン”	U	288	21.8	277	15.3	565	18.0
ト　保健所。　狂犬病。	S	193	14.6	218	12.0	411	13.1
犬3イ　朝と晩に散歩させる。《犬の世話も主婦の役目。》	D	1018	77.2	1420	78.3	2438	77.8
ロ　犬は“やきもち”をやく。	E	398	30.2	719	39.7	1117	35.7
ハ　飼犬の流行。	S	421	31.9	554	30.6	975	31.1
ニ　犬の遠ぼえは不気味。	E	296	22.4	392	21.6	688	22.0
ホ　“猫ばば”とは言っても、“犬ばば”とは言わない。《“犬ばば”とは言わない。》	U	250	19.0	295	16.3	545	17.4
ヘ　長く伸びた影。	F	78	5.9	79	4.4	157	5.0
ト　脊椎動物	O	174	13.2	163	9.0	337	10.8
犬4イ　犬のコンテスト。	S	413	31.3	608	33.5	1021	32.6
ロ　種類によって、大きさや形が違う。	O	686	52.0	1016	56.0	1702	54.3
ハ　犬死。　戌年。	U	148	11.2	141	7.8	289	9.2
ニ　ポインター種の身体の線は、すっきりしている。	F	93	7.1	125	6.9	218	7.0
ホ　郵便配達や宅配便の人《御用聞き》が困る。	D	431	32.7	501	27.6	932	29.8
ヘ　犬は四つ足である。	O	329	24.9	426	23.5	755	24.1
ト　犬も性格によって好かれたり、嫌われたりする。	E	537	40.7	807	44.5	1344	42.9
犬5イ　ざらざらして弾力のある足のうら。	F	334	25.3	483	26.6	817	26.1
ロ　犬は舌で発汗する。	O	609	46.2	774	42.7	1383	44.2
ハ　飼いたいが、死ぬとかわいそう。	E	666	50.5	1060	58.5	1726	55.1
ニ　人間より高い出演料をとる犬がいる。	S	185	14.0	249	13.7	434	13.9
ホ　お使いについていく。	D	414	31.4	623	34.4	1037	33.1
ヘ　白い歯。　青い目。	F	131	9.9	196	10.8	327	10.4
ト　いても　“イヌ”	U	298	22.6	238	13.1	536	17.1

項目別反応数（犬-2）

新版の項目《旧版》	領域	反応頻度 男性 n	男性 %	女性 n	女性 %	全体 n	全体 %
犬6イ　犬は哺乳類である。	O	266	20.2	252	13.9	518	16.5
ロ　南極探検と犬ゾリ。	S	560	42.5	719	39.7	1279	40.8
ハ　エサをもらう人を知っている。	D	627	47.5	973	53.7	1600	51.1
ニ　暗闇に青く光る目。	F	86	6.5	99	5.5	185	5.9
ホ　犬は叱られると悲しそうな様子をする。	E	648	49.1	1149	63.4	1797	57.4
ヘ　刑事のことを“イヌ”という。	U	70	5.3	35	1.9	105	3.4
ト　町中で野良犬を見かけることはあまりなくなった。《この頃、野犬の数がふえている。》	S	381	28.9	399	22.0	780	24.9
犬7イ　尾を立てている時は優越感をもつ時。	E	402	30.5	434	23.9	836	26.7
ロ　一度に数匹の子を生む。	O	408	30.9	756	41.7	1164	37.2
ハ　犬という字はなぜ「大」に「丶」をつけるのか。	U	222	16.8	253	14.0	475	15.2
ニ　人命救助で、勲章をもらった犬。	S	293	22.2	350	19.3	643	20.5
ホ　すてられた犬。	D	714	54.1	1023	56.4	1737	55.5
ヘ　毛にふれた時のしめった感じ。	F	161	12.2	208	11.5	369	11.8
ト　子犬を近所の家からもらってくる。	D	435	33.0	601	33.1	1036	33.1
犬8イ　犬は最初のしつけがかんじんだ。	D	603	45.7	991	54.7	1594	50.9
ロ　警察犬のような、社会の役に立つ犬もいる。	S	343	26.0	388	21.4	731	23.3
ハ　犬の性格は持ち主の性格に似てくる。	E	562	42.6	960	53.0	1522	48.6
ニ　コンクリートの上に凹んでついている犬の足跡。	U	114	8.6	91	5.0	205	6.5
ホ　犬はものいいたげな目をする。	E	356	27.0	604	33.3	960	30.7
ヘ　手をなめさせた時の感触。	F	210	15.9	254	14.0	464	14.8
ト　嗅覚が特に鋭敏である。	O	449	34.0	338	18.6	787	25.1
犬9イ　ひきしまった下腹部の線。	F	166	12.6	280	15.4	446	14.2
ロ　元来は肉食である。	O	265	20.1	338	18.6	603	19.3
ハ　小さな犬でも、泥棒よけになる。	D	565	42.8	867	47.8	1432	45.7
ニ　犬はさびしがりやだ。	E	709	53.8	1326	73.1	2035	65.0
ホ　闘犬の本場は土佐。	S	484	36.7	306	16.9	790	25.2
ヘ　犬は全色盲である。	O	258	19.6	335	18.5	593	18.9
ト　「犬」にかみついた「人間」。	U	190	14.4	171	9.4	361	11.5
犬10イ　狼から進化したといわれる。	O	214	16.2	280	15.4	494	15.8
ロ　首すじをだいた時の感触。	F	212	16.1	322	17.8	534	17.0
ハ　“ホットドッグ”　《犬のような顔。　チンクシャ（ブル面）。》	U	284	21.5	217	12.0	501	16.0
ニ　純真《純心》な目。　誠実な性質。	E	543	41.2	976	53.8	1519	48.5
ホ　猟犬。　盲導犬。　軍用犬。	S	497	37.7	573	31.6	1070	34.2
ヘ　すぐ、くつ等をくわえて持っていく。	D	563	42.7	869	47.9	1432	45.7
ト　運動感のある形で動く。	F	324	24.6	388	21.4	712	22.7

項目別反応数（写真-1）

新版の項目《旧版》	領域	反応頻度 男性 n	男性 %	女性 n	女性 %	全体 n	全体 %
写真１イ 露出時間はしぼりによって異なる。	O	275	20.8	162	8.9	437	14.0
ロ 写真のほめ方はむずかしい。	E	559	42.4	877	48.4	1436	45.8
ハ 火事の写真などをしろうとがとって新聞社へ売る。	S	353	26.8	419	23.1	772	24.6
ニ 低速度写真。　レントゲン写真《立体写真》。　赤外線写真。	O	519	39.3	628	34.6	1147	36.6
ホ 結婚式で写した しろうと写真。	D	511	38.7	953	52.6	1464	46.7
ヘ カラー写真は色をおしつける。	F	102	7.7	147	8.1	249	8.0
ト “どこから”みても変化なし。	U	316	24.0	431	23.8	747	23.9
写真２イ 新聞にのる写真もカラーになった。《電送写真ができて、写真が早く新聞にのるようになった。》	S	366	27.7	384	21.2	750	23.9
ロ どこの家にも家族のアルバムがある。	D	525	39.8	737	40.7	1262	40.3
ハ やわらかな曲線。　微妙な陰影。	F	81	6.1	66	3.6	147	4.7
ニ 旅行するときはカメラをもっていく。	D	646	49.0	1104	60.9	1750	55.9
ホ カメラは正直　ー　あばた は あばた	U	142	10.8	175	9.7	317	10.1
ヘ 写真は思い出を確かにする。	E	629	47.7	943	52.0	1572	50.2
ト フィルム。　印画紙。	O	248	18.8	216	11.9	464	14.8
写真３イ 不燃性フィルム。	O	40	3.0	54	3.0	94	3.0
ロ 運動会、卒業式などにはよく写真をとる。	D	1042	79.0	1603	88.4	2645	84.5
ハ カメラ業界は競争がはげしい。	S	275	20.8	223	12.3	498	15.9
ニ においも写真にとれるようになるのだろうか。《美男と醜女。》	U	172	13.0	289	15.9	461	14.7
ホ 白黒のつよい かたい感じの写真。	F	215	16.3	229	12.6	444	14.2
ヘ 写真屋に撮ってもらうのは不自然でいやだ。	E	357	27.1	653	36.0	1010	32.2
ト 事件の時、現場で使われる。	S	531	40.3	574	31.7	1105	35.3
写真４イ 写真工業が発達して簡単にきれいな写真がとれるようになった。《写真工業が発達してカメラが一般的になった。》	S	640	48.5	877	48.4	1517	48.4
ロ クローズ・アップされた肌。	F	213	16.1	235	13.0	448	14.3
ハ レンズは何枚も合わせて作る。	O	115	8.7	55	3.0	170	5.4
ニ 人に“とられて”よろこぶのは写真だけ。	U	281	21.3	328	18.1	609	19.4
ホ 石庭とひさしの影。	F	156	11.8	218	12.0	374	11.9
ヘ カメラをぶらさげた家族連れ。	D	794	60.2	1197	66.0	1991	63.6
ト とりつくろった写真はつまらない。	E	437	33.1	714	39.4	1151	36.7
写真５イ 写真は物体の影像を保存する装置である。	O	387	29.3	483	26.6	870	27.8
ロ 写真は写す人の気持ちを表現する。	E	367	27.8	462	25.5	829	26.5
ハ 写真があると広告の効果がちがう。	S	583	44.2	703	38.8	1286	41.1
ニ 家族の写真をつけた年賀状。《８ミリで家庭映画を作る。》	D	526	39.9	911	50.2	1437	45.9
ホ ２～３枚なら“タダ”でもらえる。	U	193	14.6	247	13.6	440	14.0
ヘ きちんと整理されたアルバムには、その人の人柄がしのばれる。	E	475	36.0	743	41.0	1218	38.9
ト トーンだけでボリュームがでない。	F	104	7.9	77	4.2	181	5.8

項目別反応数（写真-2）

新版の項目《旧版》	領域	反応頻度 男性 n	男性 %	女性 n	女性 %	全体 n	全体 %
写真6イ フィルムは白黒が逆である。	O	268	20.3	358	19.7	626	20.0
ロ 写真でみる風俗、流行のうつりかわり。	S	481	36.5	546	30.1	1027	32.8
ハ 本にはさんで しまいわすれた写真。	U	315	23.9	542	29.9	857	27.4
ニ アルバムにちょっとしたことばを書きそえておく。	D	416	31.5	844	46.6	1260	40.2
ホ カメラをもっていくと、自然にひたれない。	F	200	15.2	167	9.2	367	11.7
ヘ カメラには いろいろな種類がある。	O	503	38.1	440	24.3	943	30.1
ト 変にとれていてもどこかその人らしいものだ。	E	455	34.5	727	40.1	1182	37.7
写真7イ 写真コンクールがさかんだ。	S	278	21.1	336	18.5	614	19.6
ロ 露出計。　フィルター。　ストロボ。	O	347	26.3	259	14.3	606	19.3
ハ 写真になる顔。	F	491	37.2	616	34.0	1107	35.3
ニ 友達《友だち》がくると、よくアルバムをみせる。	D	369	28.0	628	34.6	997	31.8
ホ 写真ではその人の心の中まではわからない。	E	462	35.0	626	34.5	1088	34.7
ヘ ひからびた思い出。	U	285	21.6	321	17.7	606	19.3
ト 赤ちゃんがいるとパチパチうつす。	D	404	30.6	839	46.3	1243	39.7
写真8イ 新聞社とカメラマン。	S	474	35.9	488	26.9	962	30.7
ロ 写真がうまくとれた時は、誰《だれ》でもうれしいものだ。	E	465	35.3	1010	55.7	1475	47.1
ハ 日本のレンズは優秀だ。	S	153	11.6	130	7.2	283	9.0
ニ 心霊写真。　念写。　ＵＦＯ。《黄色も青も 白と黒》	U	585	44.4	610	33.6	1195	38.2
ホ 昔のアルバムをみて話がはずむ。	D	543	41.2	1063	58.6	1606	51.3
ヘ カメラは精密機械である。	O	281	21.3	175	9.7	456	14.6
ト シルエット。	F	134	10.2	148	8.2	282	9.0
写真9イ 目とカメラの構造は物理的には同じ原理である。	O	185	14.0	148	8.2	333	10.6
ロ 写真をとるときは、皆すます。	E	406	30.8	839	46.3	1245	39.8
ハ 白黒の美。	F	250	19.0	278	15.3	528	16.9
ニ 写真は子どもの成長の記録になる。	D	614	46.6	1127	62.2	1741	55.6
ホ 写真と実物はずい分違う。	E	487	36.9	539	29.7	1026	32.8
ヘ “年をとらないのは写真だけ”	U	237	18.0	343	18.9	580	18.5
ト 日本製のカメラは外国でも有名。《カメラは日本の輸出のホープ。》	S	457	34.6	348	19.2	805	25.7
写真10イ メーカー。　販売網。　ディスカウントショップ《デーラー》。	S	484	36.7	476	26.3	960	30.7
ロ 写真とはヴィジュアルなものだ。	F	243	18.4	257	14.2	500	16.0
ハ むやみに写真をみせたがる人がいる。	E	406	30.8	725	40.0	1131	36.1
ニ カメラのメカニックな美。	F	156	11.8	177	9.8	333	10.6
ホ 写真をあげたりもらったりする。	D	414	31.4	1084	59.8	1498	47.8
ヘ “使用《服用》前” “使用《服用》後”（ヤセグスリの広告写真）。	U	340	25.8	499	27.5	839	26.8
ト 一眼レフ。《ピンホール カメラ。》	O	595	45.1	405	22.3	1000	31.9

項目別反応数（木-1）

新版の項目《旧版》	領域	反応頻度 男性 n	男性 %	女性 n	女性 %	全体 n	全体 %
木1イ　木材は水に強い。	O	176	13.3	105	5.8	281	9.0
ロ　鏡台。　洋服ダンス《洋ダンス》。　整理ダンス。	D	402	30.5	800	44.1	1202	38.4
ハ　シベリア《ビルマ》、カナダは木材の産地として有名。	S	542	41.1	549	30.3	1091	34.8
ニ　椿のかたい深緑の葉。	F	255	19.3	394	21.7	649	20.7
ホ　枯れ枝をあつめてたき火をする。	D	701	53.1	923	50.9	1624	51.9
ヘ　木の毒　ー　気の毒　《キ印》	U	104	7.9	85	4.7	189	6.0
ト　木の枝を折るのはかわいそう。	E	456	34.6	769	42.4	1225	39.1
木2イ　植林。　緑化運動。	S	584	44.3	689	38.0	1273	40.6
ロ　積木。　エンピツ。	D	356	27.0	520	28.7	876	28.0
ハ　緑の濃淡。	F	261	19.8	410	22.6	671	21.4
ニ　おまえ《お前》の目はふしあな。	U	94	7.1	33	1.8	127	4.1
ホ　木の緑は心にしみいってくる。	E	456	34.6	723	39.9	1179	37.6
ヘ　植物である。	O	448	34.0	678	37.4	1126	36.0
ト　くちた落葉をふむ感触。	F	438	33.2	569	31.4	1007	32.2
木3イ　年輪は形成層の働きでできる。	O	434	32.9	666	36.7	1100	35.1
ロ　建築材としての木材は、鉄・ｺﾝｸﾘｰﾄ・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸに変わった《日本のパルプ工業は海外に進出している》	S	537	40.7	590	32.5	1127	36.0
ハ　ほこりをかぶった木はあわれだ。	E	153	11.6	203	11.2	356	11.4
ニ　熱帯林。　温帯林。　寒帯林。	O	812	61.6	1095	60.4	1907	60.9
ホ　木の根元に堆積した苔。	F	400	30.3	568	31.3	968	30.9
ヘ　スベリ台。　ブランコ。　シーソー。	D	218	16.5	439	24.2	657	21.0
ト　木でハナをくくる。	U	81	6.1	64	3.5	145	4.6
木4イ　東南アジア《南洋》ではゴムの木を栽培している。	S	399	30.3	447	24.7	846	27.0
ロ　キャンプ・ファイヤー。《子どもはよく木登りをする。》	D	692	52.5	886	48.9	1578	50.4
ハ　木のたくましい生命力。	E	602	45.6	890	49.1	1492	47.6
ニ　コンクリートについた板目。	U	79	6.0	54	3.0	133	4.2
ホ　葉の落ちた木はわびしい《侘びしい》。	E	346	26.2	570	31.4	916	29.2
ヘ　炭酸同化作用。	O	97	7.4	106	5.8	203	6.5
ト　枯葉のにおい。	F	421	31.9	673	37.1	1094	34.9
木5イ　木の切りすぎは砂漠化をまねく。	S	779	59.1	1051	58.0	1830	58.4
ロ　木彫りの茶たく《銘々皿》。	D	199	15.1	299	16.5	498	15.9
ハ　葉緑素。	O	308	23.4	417	23.0	725	23.1
ニ　森の中の暗さはこわい。	E	362	27.4	683	37.7	1045	33.4
ホ　「一」をたすと“本”という字になる。	U	175	13.3	188	10.4	363	11.6
ヘ　冬枯れの木。	F	475	36.0	732	40.4	1207	38.5
ト　製材所。　木工所。	S	336	25.5	255	14.1	591	18.9

項目別反応数（木-2）

新版の項目《旧版》	領域	反応頻度 男性 n	男性 %	女性 n	女性 %	全体 n	全体 %
木6イ　七質のよって育つものと育たないものがある。	O	212	16.1	308	1 .0	520	16.6
ロ　ラワン。　ベニヤ。　マホガニー。	S	458	34.7	480	26.5	938	29.9
ハ　火鉢にぎっしり並んでたてである炭。	F	200	15.2	215	11.9	415	13.3
ニ　豊かな木。　まずしい木。《まずしい木。　豊かな木。》	E	346	26.2	619	34.1	965	30.8
ホ　工作に使う。	D	592	44.9	738	40.7	1330	42.5
ヘ　木のない生活は味気ない。	E	731	55.4	1150	63.4	1881	60.1
ト　のっている枝を切り落とす そこつ者。	U	98	7.4	112	6.2	210	6.7
木7イ　日曜大工。	D	877	66.5	1091	60.2	1968	62.8
ロ　木はがまんづよい。	E	359	27.2	628	34.6	987	31.5
ハ　パルプは松柏類の材をほぐしたもの。	O	182	13.8	246	13.6	428	13.7
ニ　幼芽の濃いあかさ。	F	136	10.3	251	13.8	387	12.4
ホ　浮気者。（キが多い）。	U	134	10.2	114	6.3	248	7.9
ヘ　国有林。　林業政策。	S	621	47.1	645	35.6	1266	40.4
ト　ほっそりした木。	F	326	24.7	647	35.7	973	31.1
木8イ　木は根から養分をとる。	O	339	25.7	411	22.7	750	23.9
ロ　製紙工場。　パルプ工場。	S	275	20.8	255	14.1	530	16.9
ハ　玄関などによく生花がいけてある。	D	219	16.6	472	26.0	691	22.1
ニ　植物の成長には水・空気・日光が必要である。	O	525	39.8	693	38.2	1218	38.9
ホ　木彫りの製品には素朴な味がある。	F	499	37.8	687	37.9	1186	37.9
ヘ　真中だけ すごくへった階段。	U	121	9.2	119	6.6	240	7.7
ト　生活のやすらぎになる。	E	657	49.8	982	54.2	1639	52.3
木9イ　林野庁。　営林署。　農水省。《農林省。　林野庁。　営林署。》	S	283	21.5	212	11.7	495	15.8
ロ　子供のいる家庭ではクリスマス・ツリーを飾る。	D	677	51.3	1175	64.8	1852	59.1
ハ　被子植物。　裸子植物。	O	296	22.4	446	24.6	742	23.7
ニ　物言わぬ木。	E	417	31.6	605	33.4	1022	32.6
ホ　切り倒した木の匂い。	F	626	47.5	879	48.5	1505	48.1
ヘ　林業の機械化。	S	229	17.4	22	12.2	450	14.4
ト　梅干しばばぁ。　とうへん木。	U	109	8.3	87	4.8	196	6.3
木10イ　庭の手入れ。	D	524	39.7	906	50.0	1430	45.
ロ　化石の葉っぱ。	U	169	12.8	191	10.5	360	11.5
ハ　合板は木材の欠点を補ったものである。	O	121	9.2	46	2.5	167	5.3
ニ　古い木は歴史をみてきた。	E	655	49.7	1015	56.0	1670	53.3
ホ　天井。　柱。　敷居。	D	477	36.2	653	36.0	1130	36.1
ヘ　雨にぬれた幹。	F	269	20.4	429	23.7	698	22.3
ト　防風林。　防雪林。　防砂林。	S	422	32.0	384	21.2	806	25.7

項目別反応数（茶わん-1）

新版の項目《旧版》	領域	反応頻度 男性 n	男性 %	女性 n	女性 %	全体 n	全体 %
茶わん１イ 陶器にはくすんだ中間色が多い。	F	287	21.8	351	19.4	638	20.4
ロ 通常、ごはん茶わん《御飯茶碗》をさす。	O	861	65.3	1289	71.1	2150	68.6
ハ 茶わん《茶碗》の産地は中部地方に多い。	S	184	13.9	118	6.5	302	9.6
ニ あとかたづけ。	D	735	55.7	1126	62.1	1861	59.4
ホ 植木鉢の底のカケラ。	U	133	10.1	89	4.9	222	7.1
ヘ よい茶わん《茶碗》をみるのは楽しみなものだ。	E	230	17.4	473	26.1	703	22.4
ト 金物の急須でいれたお茶はまずい。	F	206	15.6	180	9.9	386	12.3
茶わん２イ 茶わん《茶碗》は 日本人の食生活から きりはなせない。	S	723	54.8	981	54.1	1704	54.4
ロ 瀬戸物。　焼物。	O	642	48.7	817	45.1	1459	46.6
ハ 人がくると、まずお茶をだす。	D	306	23.2	500	27.6	806	25.7
ニ “たたけば楽器”。　“投げれば武器”。	U	115	8.7	77	4.2	192	6.1
ホ 清潔な茶わん《茶碗》をだすお店《食堂》は感じがよい。	E	279	21.2	369	20.4	648	20.7
ヘ 茶わん《茶碗》のにぶい光沢。	F	156	11.8	141	7.8	297	9.5
ト 茶わん《茶碗》から湯気が出ているのは ほのぼのとする。	E	416	31.5	736	40.6	1152	36.8
茶わん３イ 子どもはよく茶わん《茶碗》をはしでたたく。	D	588	44.6	699	38.6	1287	41.1
ロ 模様の選び方にも人がらがでる。	E	454	34.4	921	50.8	1375	43.9
ハ 陶器工業は日本が優れている。	S	259	19.6	325	17.9	584	18.6
ニ 紅茶の深みのある色。	F	241	18.3	343	18.9	584	18.6
ホ あわてていると よく割る。	D	574	43.5	823	45.4	1397	44.6
ヘ 茶わん《茶碗》は容器として用いる。	O	288	21.8	276	15.2	564	18.0
ト 四角だったらごはん《御飯》粒がすみにくっついて困るだろう	U	225	17.1	233	12.9	458	14.6
茶わん４イ マンガのついた茶わん《茶碗》。	D	533	40.4	748	41.3	1281	40.9
ロ 茶わんは無機物である。	O	131	9.9	119	6.6	250	8.0
ハ 茶わんの柄にも流行がある。	S	280	21.2	401	22.1	681	21.7
ニ 思い出のある茶わん。	E	607	46.0	890	49.1	1497	47.8
ホ 台所。　タワシ。　エプロン。	D	579	43.9	815	45.0	1394	44.5
ヘ シンプルな線の調和。	F	395	29.9	586	32.3	981	31.3
ト 余興にバットの代わりに使う。	U	109	8.3	65	3.6	174	5.6
茶わん５イ 飲食の道具である。	O	477	36.2	512	28.2	989	31.6
ロ 瀬戸は茶わん《茶碗》の産地である。	S	323	24.5	307	16.9	630	20.1
ハ お茶をのむ雰囲気。	E	401	30.4	625	34.5	1026	32.8
ニ 大きな茶わん《茶碗》でも“一ぜん”は“一ぜん”	U	215	16.3	231	12.7	446	14.2
ホ 陶器。　磁器。	O	337	25.5	478	26.4	815	26.0
ヘ 色と質感。	F	248	18.8	428	23.6	676	21.6
ト ごはん茶わん《茶碗》は毎日使う。	D	634	48.1	1043	57.5	1677	53.5

項目別反応数（茶わん-2）

新版の項目《旧版》	領域	反応頻度 男性 n	男性 %	女性 n	女性 %	全体 n	全体 %
茶わん6 イ 茶わんの製法は中国《支那》から伝わってきた。	S	167	12.7	133	7.3	300	9.6
ロ 衝撃に弱いが熱に強い。	O	285	21.6	261	14.4	546	17.4
ハ 自分の茶わん《茶碗》。	D	845	64.1	1190	65.6	2035	65.0
ニ 産地によって いろいろな焼物がある。	S	378	28.7	514	28.4	892	28.5
ホ 食器が代わると気分までかわる。	E	530	40.2	958	52.8	1488	47.5
ヘ 茶わん《茶碗》一杯に 米粒がどの位入るか？	U	297	22.5	365	20.1	662	21.1
ト 単彩の味。	F	136	10.3	203	11.2	339	10.8
茶わん7 イ 窯でやいて作る。	O	400	30.3	505	27.9	905	28.9
ロ かけた茶わん《茶碗》はあぶない。	D	615	46.6	1007	55.5	1622	51.8
ハ 茶わん《茶碗》の値段は製品によりいろいろ。	S	371	28.1	533	29.4	904	28.9
ニ 歯にあたる時のかんじ。	F	248	18.8	279	15.4	527	16.8
ホ 素焼はうわぐすりを用いない。	O	110	8.3	111	6.1	221	7.1
ヘ 引っ越した後に、1つ残った茶わん《茶碗》。	U	188	14.3	166	9.2	354	11.3
ト 割ると気分が悪い。	E	704	53.4	1020	56.3	1724	55.0
茶わん8 イ おヘソで茶をわかす。　おちゃのこさいさい。	U	365	27.7	421	23.2	786	25.1
ロ 近頃の茶わん《茶碗》は工場で大量生産される。	S	223	16.9	254	14.0	477	15.2
ハ 流しにだされた食後の茶わん《茶碗》。	D	516	39.1	744	41.0	1260	40.2
ニ 日本の特産品。	S	365	27.7	412	22.7	777	24.8
ホ 原料は陶土、磁土などである。	O	307	23.3	354	19.5	661	21.1
ヘ まごころがこもるお茶。	E	479	36.3	806	44.5	1285	41.0
ト 素焼の感触。	F	381	28.9	634	35.0	1015	32.4
茶わん9 イ 磁器の冷ややかさ。	F	216	16.4	268	14.8	484	15.5
ロ 台所で カチャカチャ 洗っている音。	D	909	68.9	1335	73.6	2244	71.6
ハ 焼く時の温度・時間などによって硬さが異なる。	O	216	16.4	183	10.1	399	12.7
ニ 湯呑茶わん《湯呑み茶碗》の中の入れ歯。	U	117	8.9	106	5.8	223	7.1
ホ 日本は有数な陶器の輸出国である。	S	146	11.1	156	8.6	302	9.6
ヘ 愛用すると 割れるまで《われる迄》はなせない。	E	749	56.8	1225	67.6	1974	63.0
ト 新茶のあおくささ。	F	283	21.5	353	19.5	636	20.3
茶わん10 イ マッチのもえかす・タバコのすいがら。	U	133	10.1	66	3.6	199	6.4
ロ 電気の不良導体である。	O	128	9.7	52	2.9	180	5.7
ハ 茶わん《茶碗》を見ても、その人の趣味がわかるような気がする。	E	457	34.6	824	45.4	1281	40.9
ニ デパートの食器売り場。　セトモノ屋。	S	702	53.2	1033	57.0	1735	55.4
ホ ヒビの入った茶わん《茶碗》はいやだ。	E	657	49.8	866	47.8	1523	48.6
ヘ 白と藍の単純な構成。	F	295	22.4	486	26.8	781	24.9
ト 景品にもらった茶わん《茶碗》。	D	261	19.8	297	16.4	558	17.8

項目別反応数（お金-1）

新版の項目《旧版》	領域	反応頻度 男性 n	男性 %	女性 n	女性 %	全体 n	全体 %
お金1イ 流通手段。　蓄蔵手段。　支払い手段。	O	416	31.5	451	24.9	867	27.7
ロ ベースアップ。　ストライキ。	S	113	8.6	75	4.1	188	6.0
ハ けちんぼ。　よくばり。	E	543	41.2	928	51.2	1471	47.0
ニ 食費。　家賃。　光熱費。	D	673	51.0	1103	60.8	1776	56.7
ホ 都市《市中》銀行。　信用銀行。　農協。	S	614	46.6	763	42.1	1377	44.0
ヘ 沈黙は金なり。	F	158	12.0	197	10.9	355	11.3
ト コイン・トス。　銭うらない。《銭うらない。》	U	120	9.1	108	6.0	228	7.3
お金2イ 家計のやりくりは悩みのタネ《主婦の仕事》。	D	356	27.0	780	43.0	1136	36.3
ロ 通貨。　貨幣。　銀行券。	O	510	38.7	488	26.9	998	31.9
ハ お金は人間の弱点を暴露させる。	E	468	35.5	633	34.9	1101	35.2
ニ お金と芸術は縁がない。	F	118	8.9	130	7.2	248	7.9
ホ 同じお金がまた回ってくることがあるだろうか。《“無理して払うアベックの男”》	U	438	33.2	773	42.6	1211	38.7
ヘ 日本は貯蓄率が高い。	S	264	20.0	233	12.9	497	15.9
ト お金で身をもちくずす《くずす》ことがある。	E	483	36.6	588	32.4	1071	34.2
お金3イ 現金。　株券。　不動産。	S	457	34.6	394	21.7	851	27.2
ロ おこづかい。　お年玉。	D	802	60.8	1323	73.0	2125	67.8
ハ お金には紙幣と硬貨がある。	O	229	17.4	244	13.5	473	15.1
ニ お金がないとみじめな気がする。	E	510	38.7	716	39.5	1226	39.1
ホ お金の使い方は家によってかなりちがう。	D	308	23.4	512	28.2	820	26.2
ヘ 硬貨についている独特の匂い。	F	210	15.9	341	18.8	551	17.6
ト 飲んでしまった電車賃。	U	122	9.2	93	5.1	215	6.9
お金4イ 競馬。　競輪。　宝くじ。	S	727	55.1	875	48.3	1602	51.1
ロ 通貨は国家が管理する。	O	293	22.2	286	15.8	579	18.5
ハ 子どものための積立貯金。	D	343	26.0	700	38.6	1043	33.3
ニ お金は人の世の裏《うら》を知っている。	E	537	40.7	807	44.5	1344	42.9
ホ 新しい銅貨の人工的なあかね色。	F	318	24.1	492	27.1	810	25.9
ヘ ギザギザを数えたヒマな奴。	U	230	17.4	330	18.2	560	17.9
ト 卸売物価指数。　小売物価指数。	O	189	14.3	134	7.4	323	10.3
お金5イ 1円玉《低額貨幣の色》は安っぽい。	F	566	42.9	795	43.8	1361	43.5
ロ 価値評価の基準となる。	O	341	25.9	380	21.0	721	23.0
ハ クレジット。　信用販売。	S	401	30.4	567	31.3	968	30.9
ニ 古代ぎれの財布。	F	129	9.8	178	9.8	307	9.8
ホ 「三途の川」でも値切れるか。	U	108	8.2	98	5.4	206	6.6
ヘ お金に縁のない仕事の方が純粋な気がする。	E	386	29.3	537	29.6	923	29.5
ト バス代。　電車賃。《普通父親がかせぐ。》	D	705	53.4	1068	58.9	1773	56.6

項目別反応数（お金-2）

新版の項目《旧版》	領域	反応頻度 男性 n	男性 %	女性 n	女性 %	全体 n	全体 %
お金6イ 家計簿。　こづかい帳。《主婦と家計簿》	D	508	38.5	1043	57.5	1551	49.5
ロ 輸出。　貿易。　ドル地域。	S	224	17.0	231	12.7	455	14.5
ハ 所有者の名前が書けない。	U	197	14.9	261	14.4	458	14.6
ニ 消費は国家経済を刺激する。	O	148	11.2	156	8.6	304	9.7
ホ お金がなくても 豊かな《ゆたかな》人がいる。	E	633	48.0	868	47.9	1501	47.9
ヘ 浮き出してみえるすかし模様《夢殿のすかし》。	F	351	26.6	579	31.9	930	29.7
ト 長者番付。　多額納税者《ロックフェラー》。	S	573	43.4	487	26.9	1060	33.8
お金7イ 国際収支はドルではかる。	S	127	9.6	153	8.4	280	8.9
ロ 給料日。　給与明細。《月給日。　給料袋》	D	835	63.3	1193	65.8	2028	64.8
ハ ｲﾝﾌﾚｰｼｮﾝ。　ﾃﾞﾌﾚｰｼｮﾝ。　ﾃﾞﾉﾐﾈｰｼｮﾝ。	O	271	20.5	232	12.8	503	16.1
ニ お札に書いてある“落書き”	U	221	16.8	390	21.5	611	19.5
ホ 極度の貧困は人間性をかえる。	E	431	32.7	703	38.8	1134	36.2
ヘ 金貨。　銀貨。　銅貨。	O	450	34.1	561	30.9	1011	32.3
ト お金は美的なものではない。	F	300	22.7	389	21.5	689	22.0
お金8イ 日曜日に家族そろって買物。	D	357	27.1	647	35.7	1004	32.1
ロ 経済論。　財政論。　金融論。	O	237	18.0	174	9.6	411	13.1
ハ セロテープではったお札。	U	430	32.6	615	33.9	1045	33.4
ニ 市場価格。　卸値の変動。	S	223	16.9	191	10.5	414	13.2
ホ わずかなお金でも心のこもったおくりもの。	E	718	54.4	1087	60.0	1805	57.6
ヘ 銀行からもらった貯金箱。	D	308	23.4	399	22.0	707	22.6
ト お札のくすんだ色調。	F	362	27.4	510	28.1	872	27.8
お金9イ こまかいお金は財布がふくれる。	D	941	71.3	1317	72.6	2258	72.1
ロ キツネの木の葉。	U	111	8.4	215	11.9	326	10.4
ハ 紙のクシャクシャした感じ。	F	222	16.8	299	16.5	521	16.6
ニ 通貨は日銀から発行される。	O	226	17.1	248	13.7	474	15.1
ホ お金の使い方によって その人の人間性がわかる。	E	769	58.3	1186	65.4	1955	62.4
ヘ 古銭のおもしろい形。	F	216	16.4	287	15.8	503	16.1
ト 中小企業の資金繰り。	S	148	11.2	73	4.0	221	7.1
お金10イ 相場。　金融業。　カブト町。	S	421	31.9	359	19.8	780	24.9
ロ 小銭を貯金箱にためる。	D	685	51.9	1121	61.8	1806	57.7
ハ お金は造幣局で作られる。	O	261	19.8	270	14.9	531	17.0
ニ お金が人をむすびつけたり、はなしたりする。	E	589	44.7	808	44.6	1397	44.6
ホ 窓ガラスに干してあるお札。	U	177	13.4	272	15.0	449	14.3
ヘ お金の図案はデザイン以前だ。	F	88	6.7	125	6.9	213	6.8
ト お金はことさらきたないものと言われる。	E	414	31.4	667	36.8	1081	34.5

5
引用文献

Harman, H. H. 1954 The square root method & multiple group methods. *Psychometrika*, **19**(**1**), 39-55.

槇田　仁・佐野勝男　1965　Dosefu Test 基本生活領域の診断――テスト解説――　金子書房

槇田　仁・佐野勝男・櫃田紋子　1972　Dosefu グループ・テストの解説――基本生活領域の診断――　金子書房

槇田　仁・岩熊史朗・西村麻由美　1993　WAI 技法を用いた自我の実証的研究 (4)　組織行動研究（慶応義塾大学産業研究所），No. 33. (Vol. 24).

Spranger, E. 1919 *Lebensformen* 5th ed. Halle: Niemeyer.